

施策評価シート	評価対象年度		2025年度	計画	5年目	この施策を記入する課等			
	評価者	社会共創部長		担当者		生涯学習推進課長		担当者	
	評価者			担当者				担当者	
基本目標	4	一人ひとりが学び、高め合うまち							
基本施策	6	主体的に学び合い、学びを生かすことができるまちづくり							
施策	12	総合戦略 多様な生涯学習の推進							
施策の目指す姿		生涯にわたって学びたいときに学べる機会と場所があり、市民同士が互いを高め合えるまちを目指します。							
成果指標		指標名			単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成率
		「生涯学習の機会充実」の満足度			%	34.2 (2019)	33.4 (意識調査'25)	40	83.5
プロセス指標		指標名			単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成状況評価
		生涯学習センター・地域公民館等の延べ利用者数			人	156,437 (2019)	145,217	180,000	C
		出前講座の延受講者数			人	5,990 (2019)	6,435	8,000	C
事務事業評価結果									
事務事業名(◆実施計画)		I 必要性	II 有効性	III 効率性	2次評価コメント				次年度以降の方向性
公民館人権教育推進事業		普通	普通	やや向上	住みよい暮らしや、よい地域社会を築くため、町別人権問題学習会の支援及び公民館が行う学級・講座等で取り組み、人権教育学習の充実を図り、引き続き市民の人権問題学習への関心を高めていく必要がある。				総合計画に沿って継続
公民館管理事業		高い	普通	変わらない	生涯学習の機会充実のため、引き続き維持管理に努め、利便性向上を図る必要がある。また長期的視点に立ち、コスト削減や利用者の安全と使用者の利便性を検討していく必要がある。				総合計画に沿って継続
公民館活動事業		普通	有効	やや向上	市民が生涯にわたり生きがいを求め、様々な学習活動、文化活動、ボランティア活動、地域づくり活動等に取り組み意欲に応えるための事業を引き続き推進必要がある。				総合計画に沿って継続
◆公民館整備事業		普通	普通	変わらない	公民館は、今後も市民との共創や地域づくり等、地域振興の拠点施設として必要であり、長期的視点で維持改修を計画的に行う必要がある。				抜本的見直し（縮小）
臥竜山公会堂管理事業		普通	普通	変わらない	老朽化が進行している大規模施設と広範な敷地について適切な維持管理を行う必要がある。維持管理に係る業務量を精査し、事業費への反映を行うとともに、今後施設の在り方の検討を行って行くことが必要。				抜本的見直し（縮小）
◆臥竜山公会堂整備事業		普通	普通	変わらない	維持改修を計画的に行うとともに、老朽化が進行している大規模施設と広範な敷地について、今後の在り方の検討を行って行くことが必要。				抜本的見直し（縮小）
生涯学習推進事業		普通	有効	やや向上	主体的に学び合い、学びを生かすことができるまちづくりを進めるうえで、市民学園や須坂学舎の取り組みや、まちづくり出前講座の実施などを進めていく必要がある。				総合計画に沿って継続
生涯学習センター管理事業		普通	普通	変わらない	引き続き市民が気軽に利用できる公共施設として、生涯学習センターの施設修繕や備品等の更新など、適切な施設・設備の維持管理を行うとともに、長期的視点からのコスト削減や利用者の安全と利便性向上についても検討していく。				総合計画に沿って継続
◆生涯学習センター整備事業		普通	普通	変わらない	生涯学習センターは、今後も市民との共創や地域づくり等、地域振興の拠点施設として必要であり、長期的視点に立ち、維持改修を計画的に行う必要がある。				抜本的見直し（縮小）
旧上高井郡役所管理事業		普通	普通	変わらない	今後も引き続き、文化財としての保存と、歴史的建造物としての特性を活かしながら、多くの市民の方に親しまれる施設として活用できるように適切な維持管理を行って行く必要がある。				総合計画に沿って継続
「目標達成に向けた取組内容」の成果と今後の方向性									
取組分野		成果			課題		今後の取組みの方向性		
学習機会の拡大と充実		市民学園、須坂学舎、まなびー号、青少年、成人講座、女性学級の支援、高齢者の学習支援、地域づくり推進委員会事業、公民分館への支援などを実施した。			市民意識調査において「生涯学習の機会充実」の満足度は低いもの、「重要度」があまり高く評価されていないという根本的な課題に対し、提供する学習機会が市民にとっての「価値」として明確に認識されていない可能性がある。		拡充	地域に根ざした学習機会の創出と活性化、公民分館や地域づくり推進委員会との連携をさらに強化し、地域住民が主体的に学びを深め、地域課題解決に繋がる学習機会を共に創出する仕組みを強化していく。生涯学習推進リーダーの育成をさらに進め、地域における学習活動の担い手を増やしていく。	
学習の成果を発表する場の提供		各公民館単位で実施している文化祭や公民館だより、SNSなどを利用してPRすることができた。また、生涯学習推進センターの展示スペースやロビーを活用した展示、コンサートなどを開催した。			成果発表の場は提供されているものの、それが単なる「発表」に留まらず、「学んだ者同士の連携と活動の拡大」や「学習成果の地域への還元」にどれだけ繋がっているかが不明確。SNSや公民館だより等でのPR効果が、新たな参加者の獲得や市民全体の学習意欲向上にどの程度寄与しているか、具体的な評価が不足している可能性がある。		現状維持	学習成果の積極的な情報発信と社会還元、各種広報媒体（広報誌、SNSなど）を通じて、学習成果をより魅力的に紹介し、市民の学習意欲向上に繋げていく。また、学習成果が地域の課題解決や市民生活の質の向上に繋がる事例を積極的に発信し、社会還元を促進していく。	
施策の総合評価／今後の方向性									
総合的な進捗状況（ベンチマーキング）	概ね順調	総合評価・今後の方向性	「多様な生涯学習の推進」施策は、市民の学習意欲の喚起と学習機会の提供において一定の成果を上げているが、総合計画の目指す姿や市民意識調査の現状と照らし合わせると、今後さらなる深化と戦略的な展開が求められる。						

施策評価シート		評価対象年度		2025年度	計画	5年目	この施策を記入する課等					
		評価者		社会共創部長			担当者		文化スポーツ課長			
		評価者					担当者		担当者			
基本目標		4	一人ひとりが学び、高め合うまち									
基本施策		7	文化・芸術・スポーツ活動に熱心なまちづくり									
施策		13	文化・芸術・交流活動の推進と継承									
施策の目指す姿		地域の歴史・文化や芸術を市民が学び、親しみ、活躍するまちを目指します。										
成果指標		指標名				単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成率		
		「生涯学習・文化芸術・歴史を大切にしたまちづくりの推進」の満足度				%	33.9 (2019)	36.5 (意識調査'25)	50	73		
		「生涯学習・文化芸術に親しみ、地域のみなさんと一緒に活動に取り組んでいる」人の割合				%	18.4 (2019)	20.1 (意識調査'25)	30	67		
		「地域の伝統行事に参加するなど、文化の継承に取り組んでいる」人の割合				%	20.6 (2019)	24.5 (意識調査'25)	30	81.7		
プロセス指標		指標名				単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成状況評価		
		機能分散型総合博物館入館者数				人	32,584 (2019)	27,612	50,000	C		
		メセナホール入館者数				人	81,170 (2019)	61,601	90,000	C		
事務事業評価結果												
事務事業名(◆実施計画)			I 必要性	II 有効性	III 効率性	2次評価コメント			次年度以降の方向性			
創造の家管理事業			低い	あまり有効ではない	変わらない	利用者層の偏り及び高コストであることもあり、修繕料や維持管理費については必要最小限にとどめつつ、指定管理者の理解も得ながら、施設の廃止に向けて様々な検討を進める必要がある。			進め方の改善 (縮小)			
文化活動振興事業			高い	有効	変わらない	市民の文化芸術への関心が高まり、生き生きとした自主的な文化芸術活動や、優れた芸術鑑賞活動が行われることで、市民が心豊かな生活を実現できるよう、取り組みを進めていく必要がある。			総合計画に沿って継続			
図書館管理運営事業			高い	有効	変わらない	図書館は、学習・情報の拠点として、また市民の交流・居場所の役割としても不可欠な施設である。施設の老朽化等課題もあるが、工夫しながらニーズの把握や広報等に努め、気軽に利用できる図書館事業を進めていく必要がある。			総合計画に沿って継続			
博物館管理運営事業			高い	有効	変わらない	地域の歴史文化を継承し、文化・歴史・自然を考え学ぶ上で、地域の歴史・文化資料の計画的な収集、適切な保存管理、専門的な調査研究の推進など、継続して取り組んでいく必要がある。			総合計画に沿って継続			
文化財調査研究事業			必要不可欠	普通	変わらない	文化財保護法による調査をしっかりと行い、適切な保護を進めていくことは必要。地域全体で遺産を継承する仕組みづくりを行うことが求められるが、効率よく事業を進めることが必要。			進め方の改善 (縮小)			
文化財保存活用事業			必要不可欠	有効	やや向上	文化財を後世に伝えるために、調査研究及び、指定文化財の公開と支援を行って行く必要があるが、公開・活用の取組みを進めるうえで、効率化を図っていく必要がある。			簡易な改善 (縮小)			
伝統的建造物群保存事業			高い	有効	変わらない	重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことに伴い、歴史的町並みを将来に向けて適切に保存していくため、文化財保護法の「伝統的建造物群保存地区制度」を活用しながら、事業を進めていく必要がある。			総合計画に沿って継続			
文化施設管理事業			高い	有効	変わらない	芸術文化施設の有効活用を図り、市民の自主的な文化活動の育成を図りながら、指定管理者である一般財団法人須坂市文化振興事業団と連携しながら、効率の良い事業を行って行く必要がある。			進め方の改善 (縮小)			
◆文化施設整備事業			高い	普通	変わらない	文化施設の老朽化の解消や法改正に対応する改修を実施し、今後も施設をが安全・快適に利用するため、長期的な視点で、更新整備を検討していく必要がある。			総合計画に沿って継続			
文書館管理運営事業			必要不可欠	あまり有効ではない	やや悪化	自治体が行うべき必要不可欠な事業ではあるが、長期的視点でより良い在り方を検討するため、博物館等施設との一体的活用や人員配置を含む組織の在り方など、これまでの文書館の事業を踏まえて検討していく。			抜本的見直し (縮小)			
「目標達成に向けた取組内容」の成果と今後の方向性												
取組分野			成果			課題		今後の取組みの方向性				
全市をフィールドとした取組みの展開			機能分散型総合博物館と市民団体・学校教育・地域公民館活動などとの連携に取り組み、「まるごと博物館」の具現化に向け事業を展開した。			入館料の見直しや長期ビジョンの再検討などに加え、必要な施設改修が見送りとなっている等、取組み全体に課題がある。		現状維持	地域の歴史文化継承に博物館は不可欠であり、学校教育や地域との連携も有効であることから継続的に取り組む必要がある。			
文化財保存・活用の推進			「須坂のまるごと博物館」サイトを市のホームページに移行・統合して、一元的な情報発信と経費削減が図られた。また伝統芸能のデジタルアーカイブ事業により、文化継承に資した。各種指定文化財について適切な管理を行い、良好な状態で文化振興事業団へ補助金を交付して、市民に優れた芸術鑑賞の機会を提供できた。市民が文化芸術を発表する場を支援することで文化意識を高め、市民の文化芸術活動の促進が図られた。			指定文化財は良好な状態で保存されている。 文化財の公開・活用の取組みをさらに進める必要がある。		縮小	文化財保存は必要不可欠で良好な状態だが、公開・活用は課題である。効率化を進めつつ、事業を簡易に改善・一部縮小し、効果的な文化財保護活用を図る必要がある。			
文化芸術活動の支援						文化芸術への関心の高まりは特定の市民に偏る傾向があり、全市民的な広がり、特に若い世代へのアプローチが必要となる。		縮小	市民の文化活動支援は高い必要性と有効性があり、総合計画に基づき継続する。事業の効果を精査し、見直しや効率化も視野に入れながら、文化振興を推進していく必要がある。			
施策の総合評価／今後の方向性												
総合的な進捗状況(バンチマーキング)		概ね順調	総合評価・今後の方向性		地域の歴史文化継承のため、その中核となる役割を継続し、学校・地域連携の深化を図り、文化財は、保存を確実にしつつ、公開・活用の効率化を推進し、効果的な事業展開を目指す。市民の文化活動支援は、事業効果を精査し効率化を図りながら継続推進していく。 限られた資源で最大の効果を生み出し、文化・芸術の確かな継承と発展、そして市民が文化に触れる機会の創出・促進を図る。							

施策評価シート		評価対象年度		2025年度	計画	5年目	この施策を記入する課等		
		評価者		社会共創部長		担当者	文化スポーツ課長		
		評価者				担当者			
基本目標		4	一人ひとりが学び、高め合うまち						
基本施策		7	文化・芸術・スポーツ活動に熱心なまちづくり						
施策		14	スポーツ活動の充実						
施策の目指す姿		スポーツを通じ、健康で生き生きと学び挑戦する心を育み、地域の連帯感や活力が醸成されるまちを目指します。							
成果指標		指標名			単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成率
		「日頃スポーツをする・観る・関わっている」人の割合			%		36.2 (意識調査'25)	40	90.5
プロセス指標		指標名			単位	現状値(年度)	実績値	目標値(2025)	達成状況評価
		スポーツ協会構成人数			人	4,172 (2019)	3,603	4,200	C
		子ども向けスポーツ教室の参加人数			人	1,356 (2019)	1,277	1,400	C
		市民一人あたりのスポーツ施設利用回数			回	5.5 (2019)	4.6	6	C
事務事業評価結果									
事務事業名(◆実施計画)			I 必要性	II 有効性	III 効率性	2次評価コメント			次年度以降の方向性
体育施設管理事業			高い	普通	変わらない	利用者の減少や施設の老朽化など課題はあるが、市民のニーズに対応した施設整備や維持管理を行うことはスポーツの振興と健康・体力づくりの向上を図るために必要不可欠である。効率的な事業推進が必要である。			総合計画に沿って継続
◆体育施設整備事業			高い	有効	向上	国民スポーツ大会に向けた施設及び備品の整備が図られた。引き続き大会開催に向けた課題もあるが、トランポリンの普及に向け対応を図っていく必要がある。			総合計画に沿って継続
生涯スポーツ事業			高い	有効	変わらない	市民の健康の増進や豊かなスポーツライフの実現を図るため、学校施設の開放や各種イベントや生涯スポーツの推進など、今後も様々な事業を展開していく必要がある。			総合計画に沿って継続
体育団体等助成事業			高い	有効	変わらない	各種スポーツの競技団体の育成、選手の競技力の向上、大会の開催などを通じ、スポーツの振興を図っていく必要がある。			総合計画に沿って継続
「目標達成に向けた取組内容」の成果と今後の方向性									
取組分野			成果			課題		今後の取組みの方向性	
スポーツ事業の充実			ニュースポーツ研修会やトランポリンイベント、各種スポーツ大会を実施し、スポーツ普及や振興を図った。			人口減少による競技人口の減少、余暇の多様化によるスポーツ離れを食い止める対策が必要。		現状維持	気軽にできるニュースポーツの推進や研修会を通じスポーツの楽しさを伝える必要がある。
指導者の育成			スポーツ推進委員を対象に、ニュースポーツ研修会や体験講習会など、ニュースポーツにおける育成に努めた。			県で行う研修にも積極的に参加しているが、ニュースポーツをどうやって普及していくかが課題である。		現状維持	スポーツ推進委員が中心となって、ニュースポーツ大会の実施や体験会など普及に努める。
スポーツ団体等の活動支援			スポーツ協会へ補助金を交付し、加盟団体による各種大会の開催や競技者の育成等の支援を行った。			人口減少、スポーツ離れによる競技者の減少が懸念される。		現状維持	事業内容の見直しを行いながら、引き続きスポーツ協会と連携し支援をしていく。
スポーツ施設の充実と維持管理			限られた予算の中で優先順位を決め、維持管理に努めた。			年数も経っている施設もあるため、老朽化による修繕費の増大が懸念される。		現状維持	利用料を徴収している以上、利用者やスポーツ協会等の要望を踏まえ、計画的に整備をしていく必要がある。
学校体育施設の有効利用			学校開放における管理指導員を委嘱し、学校ごとで行っている施設利用調整会議を開催し、有効利用が図れた。			施設の老朽化や備品等の破損による修繕費をどこで負担するのか検討する必要がある。		現状維持	安全面からも利用者側の立場を考え、学校と協議しながら修繕をしていく。
施策の総合評価／今後の方向性									
総合的な進捗状況 (ハンチマーキング)		概ね順調	総合評価・ 今後の方向性	スポーツは、生活習慣病の予防する効果や健康増進などの効果があることから、積極的に推進する必要があるが、スポーツ団体への支援や各種大会等、その成果を総合的に判断し事業精査する必要がある。また、施設管理については安全性の担保や利便性の維持に向け必要最低限の対応をしていく。					